

平成 27 年 12 月 25 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03 - 6225 - 2207)

本日開示済みお知らせについての解説およびお詫び

当社は本日、「財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ」を公表いたしました。当該開示について平易にご解説申し上げます。当社の公表した数値等には一切影響はありませんが、みなさまにご心配をおかけしておりますこと、申し訳ございません。

1. 当社が平成 27 年 9 月期の連結財務諸表を作成する途中過程で、連結仕訳並びに計算が誤っている段階で会計監査人に提出、監査法人の指摘によりこれを訂正したものがございました。当該誤謬と訂正が平成 27 年 9 月期決算に一定金額以上発生しました。これは当社の経理部門の主にケアレスミス等によるものですが、当該ミスが発生したこと、これを自社内でチェックしきれずに監査法人に提出してしまったものです。(ミスの具体的な内容は本来「短期貸付金」に分類すべきものを「長期貸付金」に仕訳していた、などです。) 本件について開示すべき基準にまで達しましたこと、当社の力不足であり、十分に注意していないことによるものであります。ご心配をおかけし、心から関係各位にお詫び申し上げます。
2. 当社の開示は、当然に会計監査人の指導を受け、すでに訂正したものを開示しておりますので、その内容に誤りはなく、数値等はすべて適正です。今後、開示済み財務諸表数値等の訂正等は起こりません。
3. 当社の財務諸表等の公表においては、当社内での財務諸表等の作成から、監査法人への提出、監査法人の指導を取り込んでの財務諸表修正というプロセスを経ます。そのなかで当初に作る財務諸表について、監査法人に提出して指導を受ける前に当社自身がミス等を確実にチェックしており、監査法人からの指摘指導を最小限しか受けないで済むようにすることが求められております。
4. このことについては会計監査人並びに監査役会から指摘を受けたため、監査役会の監査報告書並びに事業報告の「1. 企業集団の現況」の「(10)その他企業集団の現況に関する重要な事項」における「財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備」に記載されることになりました。このために今回の開示をすることになりました。
5. 今後はこのようなミスが起こらないよう、また監査法人等のお手を煩わせないよう、財務諸表作成過程の手順を見直しました。また現在、経理人材の教育ならびに獲得を引き続き行っております。早急に適切な実行により、今後みなさまにご心配をおかけすることのないようにいたします。

関係者の皆様にお詫び申し上げますとともに、上記実行をお約束いたします。

以 上